

いもう 葦毛通信



シノハツナミ

2023年5月29日
豊橋市文化財センター
豊橋市松葉町3丁目1
TEL: 0532-56-6060

No. 138

1、2022年度葦毛湿原の動物調査－2

1) 撮影された動物

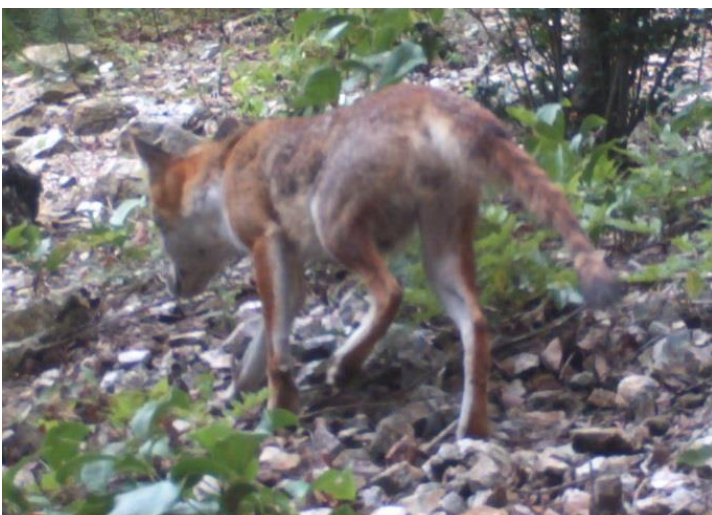
2022年度に二の沢では10種類の動物が確認されています。ニホンカモシカは夜間の撮影が26回、日中は6回撮影されています。4月28日は午前5時23分、6月11日は午前6時19分(前号)に撮影されており、日中でも明け方が多いようです。ニホンイノシシは夜間が12回ですが、日中は1回だけで7月14日の午前4時56分に撮影されています。この2種の主要な活動時間は夜間ですが、ニホンカモシカは昼間でも目撃されています。



ニホンカモシカ (2022年4月28日)



ニホンカモシカ (2022年4月10日)



ホンドキツネ (2022年6月16日)



ハクビシン (2022年9月9日)

ホンドキツネは6月15日午前4時56分と翌日の6月16日午前10時39分に撮影されています。同一個体がほぼ同じところを通っているようです。ホンドテン、ニホンアナグマ、ニホンイタチはいずれも夜間に撮影されています。

葦毛湿原は都市近郊にあり、西側500mほどのところには住宅地があります。ノネコはここからきていると思われませんが、たまに撮影される程度です。



ホンドテン (2022年12月29日)



ニホンアナグマ (2022年8月15日)



ニホンイタチ (2022年4月27日)



ノネコ (2022年9月27日)

2、ニホンジカの食害

葦毛湿原では、二の沢で継続的にセンサーカメラを使って動物の調査を行っています。葦毛湿原にどのような動物が来ているのかを調査するのが目的で、湿原の南側斜面の森だったところの木を切って伐根した二の沢に設置しています。ここは木道から最も離れた位置にあり、人間の影響が少なく動物が撮影しやすい明るい草地という環境でした。

葦毛湿原での動物調査ではこれまでニホンジカは撮影されてきませんでした。山の上の稜線上ではニホンジカがセンサーカメラに映った例はありましたが、湿原までは下りてきていないと考えていました。しかし、この2～3年でノカンゾウが目立って減ってきました。原因がわかりませんが、とりあえずニホンジカの食害の可能性が考えられたので、三の沢にセンサーカメラを設置し確認することにしました。

1) ノカンゾウの減少

ノカンゾウは葦毛湿原ではD・E地点（三の沢下流部）に多く自生しています。D・E地点は植生回復作業を最初に行ったところですが、作業後、ノカンゾウが多く咲くようになっていました。ノカンゾウはユリ科の多年草で、薬草として利用されており、食用にも使われています。花は一日花で開花した日に咲き終わって閉じてしまいます。葦毛湿原では、ミカワバイケイソウ、カザグルマ、トキソウ、ヒメミミカキグサ等、絶滅が危惧される希少種に関しては開花数の調査を行っていますが、ノカンゾウは一日花で、正確に開花数を計測するには毎日計測する必要があるため、開花数の調査を行ってきませんでした。

下右写真は三の沢下流部で、木道から東側の三の沢上流部を向いて撮影しています。画面の左から中央にかけて多い時で20花ほどのノカンゾウの花が咲いていました。しかし、この2～3年で目立って減ってきました。



三の沢のノカンゾウ（2022年7月17日）



三の沢下流部（2023年4月17日）

2) センサーカメラによる確認

センサーカメラは、木道近くの木の幹にベルトで固定しました。最もノカンゾウが多く咲いていた木道近くで、見学者が写らない角度にして地上1mほどのところに設置しました。



三の沢のセンサーカメラ



センサーカメラ取付位置（幹の中央）

設置後、すぐにニホンカモシカとニホンジカ（メス）が写りました。ニホンカモシカはこれまでも二の沢で多く撮影されていましたが、ニホンジカは一度も撮影されたことはありませんでした。

ニホンカモシカは単独で行動して、メスが一頭ずつ縄張り持ち、オスは複数のメスの縄張りに重なるように縄張りを形成するとされています。これまでの調査で、葦毛湿原のある東部丘陵一帯で少なくとも十数頭は生息していると考えられています。子供を連れたメスも撮影されており、繁殖していることが確認されています。

葦毛湿原でも、これまでシカの食痕と考えられるものは確認していましたが、一か所で大量に食べられたわけではなく、散漫にわずかにみられるだけでした。このような食痕は湿地中心部でもわずかにみられましたが、ニホンカモシカによるもので湿原の植物に大きな影響はないと判断していました。

右上写真はニホンカモシカで、画面右側にノカンゾウが多く咲くところがあります。動画を確認すると画面中央に写り、左側に通り抜けていることが分かりました。ニホンカモシカは植物を食べているところが写っていたわけではありません。



ニホンカモシカ（2023年4月15日）

右下写真は夜間の撮影で分かりにくいですが、ニホンジカのメスが右を向いて地上に鼻先をつけて写っています。動画を確認すると地上の植物を食べていることが確認できました。



ニホンジカ（メス）（2023年4月3日）

最近ノカンゾウが減ったのはニホンジカによる食害が原因である可能性が高くなりました。また、これ以外にもコバノトソウやホソバリンドウが数を減らしていますが、これらもニホンジカの食害が原因である可能性があります。

これまでの葦毛湿原の動物調査は、どのような動物が来ているのかを確認するためのものでしたが、湿地中心部にセンサーカメラを設置して、食害対策の観点

から状況を把握する必要があることが判明しました。現在、至急防鹿ネットの設置とセンサーカメラの増設を行うことを検討しています。